

ほのか診察室

HONOKA Consultation room

シリーズ

第102話

初診時の問診のススメ

問診の必要性和症状を正確に伝えるために

市民病院 診療運営部 外来診療課 監修

医療機関を受診したとき、医師や看護師から、症状やこれまでにかかった病気について聞かれたことはありませんか。これを問診と言います。

問診は、適切な診断、安全で安楽な治療を行うために必要な質問です。現在治療中の病気の有無、症状と食事との関係、嗜好品などから診断のヒントを得る場合が多くあります。また、アレルギーの有無や内容は、検査を受けるときに大切な情報になります。

しかし、医師や看護師の前に来ると、何から話して良いのか混乱してしまうこともあると思います。言い残しがなく、正確に自分の体の状態を伝えられるよう整理してみましよう。



③ 今、治療している病気について経過と治療の内容を伝えましよう

何歳から何という病名で、どの病院でどんな治療を受けているか。

例・〇歳（〇年）から糖尿病で〇〇

〇〇歳（〇年）から高血圧で〇〇

④ 嗜好品、アレルギーについて伝えましよう

【飲酒】いつからどのくらいの頻度で、何をどのくらい飲むのか、また

例・〇歳から1週間に2日、缶ビールを350ml飲んでいましたが、

〇歳から禁酒している。

【喫煙】いつから何本吸っているのか。いつからやめたか。

例・〇歳から1日20本たばこを吸っている。

【アレルギーなど】何を食べたときに、どんな薬を飲んだときに、どんなときにどんなアレルギー症状が出るか。いつから何という健康食品を摂取しているか。

例・たまごを食べると発疹が出る。

・歯医者での麻酔で気分が悪くなった。

・〇歳のころ（〇年前）から〇〇という健康食品を摂取している。

⑤ 自分の体調や環境について知っておくことも大切です

・最近の身長、体重。

・健康診断の結果と、いつどこで受けたか。

・アレルギー疾患を持つ親戚の有無。

・最近、接触のあった人が感染症の病気にかかった。

・介護申請の有無、介護度、利用施設やケアマネージャーの氏名、緊急連絡先（ご家族の連絡先、氏名）。

⑥ お薬手帳を持って行きましよう

薬の重複やよくない飲み合わせを未然に防ぐことができます。過去にアレルギー症状の出た薬の名前をメモしておくことも副作用の予防につながります。災害時にも自分の薬の情報を正確に伝えることができます。

問診でお答えいただいた内容は、治療以外で利用することはありません。普段から今までの病気や緊急連絡先などのメモを持ち歩くなど、急な受診に備えておくこと安心です。

